

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
環境教育の推進	自然や環境について、地球環境の保全の視点で学習します。	1	野菜作りの学習(植物に親しませるとともに、自然のすばらしさを感じさせる)	1・2年 仲よし級担任教諭	児童 教職員	・1,2年生は、花、野菜の栽培に取り組み、その生長を直に感じることができ、それを喜びとすることができた。また、卒業式の花道にも飾らせてもらった。 ・四季を通じて、観察活動をしながら、その季節での植物の特徴について学ぶことができ、自然の変化を捉えることができた。 ・理科や総合的な学習の時間等を通して、地球温暖化などの環境問題に向き合うことができ、自分たちが学んだことをまとめ、環境問題を考えることができた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ・それぞれの学年に応じて、自然や環境について考えるきっかけをつくれた。 【今後の課題】 ・校内だけで終わらせるのではなく、家庭や地域にもその活動が広がる展開を考えさせていきたい。
		2	市の様子(茅ヶ崎市の土地利用の様子から、森林等の保護について)を考える	3年担任教諭	3年 児童		
		3	環境問題についての学習	5・6年担任教諭	5・6 年児童		
省エネルギー・省資源の推進	電気・水・紙などの資源保護に努めます。	1	学校全体での節電・節水	教頭 学校事務職員	児童 教職員	・梅田向上委員会では、「梅田SDGs」を掲げ活動した。 ・宮ヶ瀬ダムの見学も含め、自分たちが使う水がどこから、どのような過程を経て自分たちのところに運ばれるのかを理解した。その結果、より大切に水を使おうとする意欲が生まれた。 ・雨水を利用することが習慣化し、身近な節水を総ての児童が心がけた。 ・フードロスに目を向けるクラスもあり、給食の残飯をできる限り減らす努力を行った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ・節電や節水など、子どもたちが子どもたちなりに資源保護の大切さを感じ、実際に活動をした。 【今後の課題】 ・フードロスは新しい視点である。一方、給食の強制にならないよう配慮していきたい。
		2	水はどこからの学習	4年担任教諭	4年 児童		
		3	野菜・花を育てようの学習(1人1鉢での栽培学習・水やりに雨水を利用する)	1・2年担任教諭	1・2年 児童		
廃棄物削減の推進	リサイクル。リユースに努め、廃棄物を削減します。	1	古本や不要な日用品類を集め、リサイクルショップや協力団体に引き取っていただく活動(FKP-古本回収プロジェクト)	運営委員会 担当教諭	運営委員 会児童・全校児童	・今年度も「FKP」として、6年生の委員会活動で古本、CDのリサイクルの活動を呼びかけ、11月に環境フェアに参加し、回収を行った。市長から表彰されるに至った。 ・エコキャップの回収は、活動の日常化が図られている。お家にあるキャップがたまると、もってくる児童が多い。テトラパックの回収も、放送を入れるなど取組を促していた。	【取組の評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 ・FKPは梅田小学校の活動として定着してきている。どうやったら、リサイクル品が集まるのか、景品を作ったり、放送で呼びかけたりして、子どもたちが気付き、考える活動が組み合わせてできた。 【今後の課題】 ・イベント的に集中して取り組む活動と、日常的に継続して行う活動を意識しながら、学校全体としての取り組みを考えたい。
		2	エコキャップの回収	教頭	児童 教職員		
		3	ゴミはどこへの学習	4年担任教諭	4年 児童		
		4	給食で出たヤクルトやジョアの容器を図工や生活の作品作りに活用する	2年担任教諭	2年 児童		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



市の環境フェアに参加して、古本・CDの回収を行った。  
しおりや筆立てを作成し、古本やCDを持ってきた人にプレゼントした。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

大久保仁晶

【今後の方向性について】

小学校は6年間という幅の広い期間なので、各学年に応じた取組を考え、系統性を意識しながら定着させていきたい。SDGsがいろいろなところで取りざたされている現在、学校での学習・活動のどの場面がつながっていくのかを考え、取り組んでいきたい。一方、学校で学ぶ内容は多岐にわたっているため、子ども・教職員への新たな負担とならないよう、継続できる範囲での取組を意識していくことも大切であると考えている。また、学校だけでなく、地域や市内の施設などとの連携を通して、より子どもたちが活動できる機会を設けていきたいと考えている。